

會務報告

第 23 卷 第 3 號 昭和 12 年 3 月

通常總會記事

昭和 12 年 2 月 15 日午後 5 時より東京市麹町區九ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開催せり。出席者 94 名

會長井上秀二君議長席に着き開會を宣し下記議事に就き報告又は出席會員の承認を得たり。

1. 昭和 11 年度事業報告 (本號會告参照)
2. 昭和 11 年度決算報告 (本號會告参照)
3. 役員選舉の結果報告

昭和 12 年度役員選舉投票の結果、(投票人員 800 名)

會長 當選 (改選) 750 票 大河戸宗治君

次點 12 票 辰馬鎌藏君 3 票 八田嘉明君
2 票 大井上前雄君 2 票 章間 偉君
2 票 丹羽劔彦君 2 票 物部長穂君

副會長 當選 (改選) 728 票 新井榮吉君

次點 5 票 物部長穂君 4 票 谷口三郎君
4 票 茂庭忠次郎君 3 票 田中 豐君
3 票 山田隆二君 以下略

常議員 當選 (改選) 740 票 金子源一郎君

同 726 票 森田三郎君
同 717 票 榎木寛之君
同 715 票 阿曾沼 均君
同 707 票 高橋 甚也君
同 706 票 淺間 逸雄君
同 699 票 中村光四郎君
同 690 票 久保田正雄君
同 682 票 河西定雄君
同 667 票 海老 季美君

次點 25 票 井上隆根君 20 票 青木楠男君
16 票 内村三郎君 15 票 岩澤忠恭君
14 票 小澤久太郎君 13 票 和田重辰君
13 票 山崎匡輔君 11 票 岡田信次君
11 票 高橋嘉一郎君 10 票 赤木正雄君
10 票 小宅習吉君 以下略

常議員 當選 (補缺) 676 票 小澤久太郎君

同 661 票 小宅 習吉君

次點 7 票 中村光四郎君

5 票 河西定雄君 以下略

以上を以て議事を了し、次に昭和 11 年度優秀論文

の著者に對し土木賞牌贈呈を行ふ。

昭和 11 年度優秀論文及著者

連続拱橋の解法

會員 工学博士 三瀬幸三郎君

次で井上會長の講演 (別項) あり午後 6 時 10 分閉會せり。

總會終了後有志晚餐會を開催し午後 8 時散會せり。

(別項参照)

役員會記事

第 18 回理事會 (昭 12. 1. 25)

出席者: 井上會長, 辰馬副會長, 宮本, 萩原, 藤井, 沼田, 宮長, 後藤各理事

議 事

1. 昭和 11 年度土木賞牌は次の論文に對し贈呈することとせり (第 10 回常議員會記事参照)。

2. 役員選舉投票日時及開票立會役員を次の通りとせり (第 10 回常議員會記事参照)。

3. 昭和 11 年度決算報告を別紙 (省略) の通り承認せり。

4. 昭和 11 年度關西支部決算報告を別紙 (省略) の通り承認せり。

5. 會員工学博士岡崎文吉君より申出の土木賞牌基金 1000 円寄附の件は同君記念基金として受領しては如何かを相談することとせり。

6. 淺野好君より 4 月 3 日頃講演致したき旨申入ありたるも同月は第 1 次學術講演會開催の關係上後日機會を見て講演を願ふこととし其の旨回答することとせり。

7. 第 1 次學術講演會講演集は收支の横ふ範圍にて發行することとし其の旨關西支部へ回答することとせり。

8. 入退會の件

相澤九十九君外 11 名を會員に、井關敏君外 33 名を准員に、荒谷俊司君外 59 名を學生員に入會、准員小柳瀨君外 2 名を會員に、學生員井上幸太郎君外 3 名を准員に転格を承認せり。

會員齊藤鼎君外 1 名、准員内田新吾君、學生員戸塚敏雄君は死亡し、會員伊勢谷清三君外 2 名、准員稻葉彌一君外 3 名の退會を承認せり。

第 1, 3 及 4 項は常議員會に諮ることゝす。

第 10 同常議員會 (昭 12. 1. 25)

出席者: 井上會長, 辰馬副會長, 宮本, 萩原, 藤井,
沼田, 宮長, 後藤, 内田, 河口, 瀧, 關,
吉田各常議員
中川, 眞田兩前會長

報 告

1. 入退會の件別紙(省略)の通り報告せり。

議 事

1. 昭和 11 年度土木賞牌は次の論文に對し贈呈することゝせり。

土木學會誌第 22 卷第 11 號所載

連続拱橋の解法 會員 工学博士 三瀬幸三郎君

2. 役員選舉投票開票日時及開票立會役員を次の通りとせり。

投票開票日時 2 月 3 日(水曜日)午後 5 時

開票立會役員 辰馬副會長, 宮本, 沼田兩理事

河口, 小野兩常議員

3. 昭和 11 年度決算報告を別紙(省略)の通り承認せり。

4. 昭和 11 年度關西支部決算報告を別紙(省略)の通り承認せり。

5. 水野甚次郎君より 300 円寄附申出ありたるに付本會賛助員に推薦することゝせり。

6. 故古市男爵記念事業會に對し 1,000 円を寄附することゝせり。

第 11 同常議員會 (昭 12. 2. 3)

出席者: 辰馬副會長, 宮本, 沼田, 小野, 河口各常議員。

昭和 12 年 1 月 25 日の常議員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に昭和 12 年度役員選舉投票を開票せり, その結果は總會記事の如し。

第 12 同常議員會 (昭 12. 2. 15)

出席者: 井上會長, 辰馬副會長, 宮本, 萩原, 藤井,
宮長, 後藤, 内田, 小野, 河口, 菊池, 關,
吉田各常議員, 古川前會長

報 告

1. 昭和 12 年度役員選舉の結果を別紙(省略)の通り報告せり。

2. 昭和 12 年度關西支部役員選舉の結果を下記の通り報告せり。

支部長(新任) 高西敬義君

商議員(新任) 宮内義則君 同(〃) 萩原基治君

同 (〃) 笈 斌治君 同(〃) 岩崎雄治君

同 (〃) 石井穎一郎君 同(〃) 青山秀雄君

同 (留任) 坪井豊彦君 同(〃) 松田健作君

同 (〃) 奥中喜代一君 同(〃) 糠澤惟助君

同 (〃) 有光 正君 同(〃) 澤井八洲男君

幹事長(〃) 島崎孝彦君

庶務幹事(〃) 鮫島午吉君

會計幹事(〃) 柴田辰之進君

3. 關西支部第 1 回役員會議事を報告せり。

4. 工学博士岡崎文吉君より記念基金として 1,000 円寄附あり之を受領せり。

議 事

1. 工学博士岡崎文吉君寄附金の名稱は同君の意志を尊重し同君満洲在任記念基金とすることゝせり。

2. 東部防衛司令部よりの通達に依る防空施設研究會の件に關し宮本總務部長が本會を代表して出席しその會議の結果報告あり本會選出研究委員の選定は次回常議員會に於て協議することゝせり。

3. 第 1 回同年次學術講演會經費豫算の追加を關西支部より申出での件は次回常議員會に於て協議することとせり。

以上の議事終了後井上會長より退任に就ての挨拶あり次いで宮本常議員より留任役員を代表して井上會長在任中の功績と御盡力に對し感謝の意を表せり。

總 務 部 記 事

第 74 回講演會 (昭 12. 1. 28)

土木學會, 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會共同主催の下に帝國鐵道協會に於て開催せり。

來會者 270 餘名

演題並に講演者

(1) ボールダージダム工事に就て(本號講演參照)

東京市小河内貯水池建設事務所長 小野基樹君

(2) 第 3 回世界動力會議並に第 2 回國際大堰堤會議見學旅行團參加報告(本號講演參照)

附・映畫・米國に於ける堰堤工事の實寫

日本電力株式會社取締役技師長

工学博士 石井穎一郎君

第 10 回振興委員會第 3 部會 (昭 12. 2. 1)

出席者: 太田尾委員長, 小澤, 奥田, 佐藤, 瀬戸,
服部, 岡崎(代理山岡)各委員, 宮本總務
部長, 小野寺庶務主任

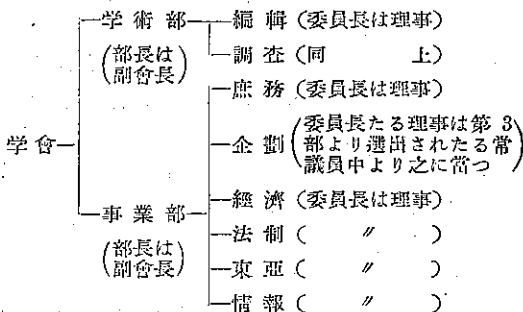
昭和 12 年度常議員選舉に關し太田尾委員長より別

紙(省略)の如く説明報告あり、次いで宮本總務部長より振興委員会は現會長の任期満了と共に自然解消するものにして存続を希望されるならば一応意見を承り置きたとの事につき評議の結果下記の如く建議事項の一部として處置する事にせり。

建議事項

1. 企劃委員會の設置: 委員はなるべく學會に接觸する機會少き人々にして優秀卓抜なる意見を有し、而も熱意を以て學會を支持せんとする會員の新顔を以て組織し、自由討議の可能なる雰圍氣を失はぬ様考慮ありたし。

2. 學會内の機構を次の如く改正ありたし。



理由

現在の如く各部が同一権限に活動する時は兎角地味な學術、技術の研究は影薄き觀なきにしも非ず。副會長2名を上記の如く責任ある地位に置き殊に學術部の活動を一層旺盛ならしむる要あるものと認む。

上記事業部の内

「庶務」は内外諸學會との連絡及他に屬せざる諸事業遂行機關。

「企劃」は土木界全般に渉る諸計畫の提案。

「情報」は定期的に新聞、諸雜誌、ラヂオを通じ或は映畫の作成等により一般民衆と土木界、特に學會との密接なる聯絡を図り諸計畫、諸事業を效果的ならしむる機關とす。

3. 行政機構改革に伴ふ「交通省」の實現並に實現後の情勢に對し萬遺漏なく活動せられん事を特に切望す。

第4回土木學會文化映畫委員會 (昭12.2.4)

出席者: 金森委員長, 青木, 大島(代理草間), 片平, 澤各委員, 宮本總務部長, 小野寺庶務主任

議 事

1. 自第2回至第4回委員會に於て本委員會事業の對外的宣言書作成に就き検討し別紙(省略)の通り決定せり。

2. 土木映畫の編輯を開始し次回の委員會より毎回資料調査を行ふこととす。

3. 宣言書發表と共に土木技術に關する映畫脚本を募集することとす。

4. 准員草間康二君を委員に追加することとす。

5. 次回委員會に於て次の事項に就き協議することとす。

(イ) 映畫會開催に關する具体案

(ロ) ニューズ映畫のため各地工事情況調査の方法に關する具体案

晩 餐 會 (昭12.2.5)

午後5時より振興委員會第2部第3部委員を丸ノ内會館に招待し第3次振興委員會の事業終了に當り慰勞の晩餐會を開催せり、出席者29名、井上會長より學會振興に就き委員各位の絶大なる盡力に對し感謝の詞あり次で古川第2部委員長及太田尾第3部委員長より夫々挨拶あり盛會裡に午後7時散會せり。

經 理 部 記 事

第2回土木學會財政調査委員會 (昭12.2.12)

出席者: 前川委員長, 阿曾沼, 大竹, 金子, 佐藤, 竹波, 藤田, 三浦, 谷井各委員, 萩原經理部長, 柴原書記長, 朝倉會計主任

協議事項

1. 昭和11年度決算並に同12年度豫算に據る本會の經費は相當支出超過を計上するに至れり依て本委員會は今後如何に財源を得る方策を講ず可きかに就き攻究す。

2. 財源を得る爲特別員の入會勧誘に意を注ぐこととし差當り關西支部提議の條件にて關西地方に於ける特別員の入會を勧誘することを常議員會に提議することとす。

3. 特別員の入會を勧誘するに當り特別員の事業に付相談を受くる機關として本會に常置委員會(土木事業調査常置委員會の如し)を設置せられむことを常議員會に提議することとす。

編 輯 部 記 事

第2回會誌編輯委員會 (昭12.2.2)

出席者: 關委員長, 板倉, 大久保, 岡崎, 樫部, 鳴野, 鈴木, 長田, 野坂, 廣瀬各委員, 五十嵐, 中川, 豊田, 鈴木各編輯囑託

1. 第 23 卷第 1 號所載の工事寫眞、時報、抄録に對する謝禮を決定せり。

2. 第 23 卷第 3 號に下記原稿登載を決定せり。

會長講演 (2 月 15 日總會に於て講演のもの)

討議: 愛知縣名古屋・清洲間國道 12 號改築工事及經濟的效果について (會, 高橋敏五郎), 同上 (著, 會, 山口十一郎)

時報: 學位論文審査報告 (島崎孝彦提出), 國際材料試験協會第 2 回總會記事, 廣島電氣打梨發電所計畫概要, 廣島電氣土居發電所計畫概要, 都市計畫關係決定事項

3. 第 23 卷第 4 號に下記原稿登載を決定せり。

論說報告: 平面測量の原點決定に就て (准, 加賀美一二三), 捲立凹形隧道の応力分布 (准, 谷本勉之助)

討議: 利根川河口の砂洲の消長に就て (會, 北澤貞吉), 同上 (著, 會, 松尾春雄)

彙報: トラバース測量に於ける方位角の換算法 (會, 安東功), 千葉縣小湊大橋工事報告 (會, 宮崎正次)

抄録: 鉄筋コンクリート杭の聽診 (畠山), 高硅酸セメントの硫酸鹽溶液及海水に對する抵抗 (藤田)

法 制 部 記 事

第 8 回行政機構改正調査委員會 (昭 12. 2. 12)

出席者: 八田委員長, 鈴木, 榎木 (代五十嵐), 古川, 後藤, 堀越, 高橋 (三), 池邊, 宮島, 加藤各委員, 宮長法制部長, 宮本總務部長, 小野寺庶務主任

會議に先立ち宮本部長より行政機構改正に關する調査局の意圖概要を説明し議事に移る。

交通省官制案に就き再検討を行ひたる結果本案の一部を修正して理想案とし, 更に比較的實行容易なる (現在機構の儘として各省所管事項の連絡統制を図る) 内閣直屬の強力なる委員會を作ることを目標として原案を作成することに意見の一致を見た。

委員會案は幹事に於て起草し次同委員會に於て審議することとした。

調 査 部 記 事

第 2 回用語調査常置委員會 (昭 12. 1. 21)

出席者: 中川委員長, 岡部 (代理稻穂), 龜田, 菊池,

福田 (主査), 松尾, 町田各委員, 藤井理事, 糸川幹事, 五十嵐編輯囑託

協議に先立ち, 福田主査より英和工學辭典改訂に關する實例として「A」の部の用語 184 語に就き改訂, 追加せる案を印刷し, 之を各委員に配布せり。

協議事項

1. 審議の方法

- (1) 各委員に於て前回決定せる擔當部の語に就き, 之を改訂し一定期限以内に主査に提出すること。
- (2) 提出せられたる案は主査, 幹事, 編輯主任に於て整理し, 更に他學會用語, 等に關するものを撰定し, 之が補充をなすこと。
- (3) 上記調査の結果を整理, 編撰するに便ならしめるため, 回答用カードを作製し, 各委員に配布すること。
- (4) 必要に応じて隨時會合を開き, 用語の審議及之が進行を計ること。

2. 改訂の方針

- (1) 用語の改訂は土木工學用語集, 資源局標準用語集, 工學會選定用語集に基きて, 之を行ひ, 英和工學辭典に於て之に準ずる語も亦同一の改訂を行ふこと。
- (2) 必要なる用語は之を追加し, 又不必要と認められるものにあつては之を削除すること。
- (3) 必要なる用語には註釋を附し, 又之が改訂を行ふこと。
- (4) 同一用語に對して譯語は必要なる限り幾通りにても使用するを妨げざること。
- (3) 一用語に就いて全く意義を異にする譯語が 2 つ以上存在する場合には (1), (2) 等の番號を附して之を區別すること。
- (6) 同一なる譯語に就ては土木學會用語を先に排列すること。
- (7) 用語の出所を明かにするため, 譯語の後に, 土木工學用語集によるものは (土), 資源局標準用語は (資), 又工學會選定用語は (工), を附すること。

3. 具体的方法

1 及 2 の方針に基き取敢ず英和工學辭典の「A」の部に關する用語の改訂を次回 (2 月 6 日) 迄に主査の手許に提出することを申合せたり。

第 3 回用語調査常置委員会 (昭 12. 2. 10)

出席者: 中川委員長, 小宅, 岡部, 龜田 (代理小林),
樞部, 菊池, 島野, 野口, 松尾 (代理横田),
町田各委員, 沼田調査部長, 藤井理事, 糸
川幹事, 五十嵐編輯囑託

前回決定せる方針に基き各委員より各々擔當部門の「A」の部に關する用語の改訂案提出あり。議事に先立ち幹事より前回迄の協議事項に關し説明せり。

協議事項

1. 改訂語を記入すべきカードの使用法に就き, 統一せる記入法を決定し各委員に通知する事。
2. 今次の改訂の根本となるべき土木工学用語集, 工学会選定用語, 資源局標準用語中に於て更に吟味を要すべき語ある場合は之を本委員会にて審議を爲し, 必ずしも之に據らざる事を得る事。
3. 用語が 2 語以上の語句より成る場合には, 共に名詞的語句ならざる限り之が重複掲載を避くる事。
4. 各用語の後に (土), (資), (工) 等の出所別を示す事の可否は次回協議する事。
5. 次回 (3 月 6 日) 迄に「B」の部に關する改訂案を作製, 主査に提出する事。

第 8 回鋼橋示方書調査委員会 (昭 12. 1. 26)

出席者: 田中委員長, 青木, 西岡, 成瀬, 小澤, 富樫各委員, 沼田調査部長, 友永幹事, 五十嵐編輯囑託

1. 交番応力に於て獨逸 (γ Verfahren) $\frac{2}{3}\sigma\beta\left(1-\frac{1}{4}\frac{S_{min}}{S_{max}}\right)$ の $\frac{1}{4}$ の係数を $\frac{1}{3}$ にしたる方理論的にもより合致する事に就き田中委員長より説明あり, $\frac{1}{3}$ にする事に決定。

2. 交番応力の作用する部材の接合部分の鉄數計算は既に γ Verfahren で出した許容応力に従てその部材断面が決定されてゐる爲, 小さい方の応力の $\frac{1}{2}$ を各々に加へてその応力に對して鉄數を決定する在來の方法は廢棄してその member full strength 以上には打たない事とす。

3. 活荷重の future increase 並に ambiguity に對して dead load stress or live load stress に對する allowable stress を変へる事に決し, 先づ一案として dead load に對する allowable tensile stress を 1400, live load に對する allowable tensile stress を 1200 と決定す。

4. 長柱に對しては大體に於て Rankine Formula

に依る事にし, $\frac{l}{r} > 100$ に對しては safety factor を一定にする事にし, 荷重の偏心に關しては次回に於て審議する豫定。

Euler 公式と異なり column formula は元來 plastic condition につき論ずべきものなる故 column の end condition に對し pin end or fixed end 等の區別を附せざる事とする。

5. 橋梁の振動に對し振幅の最大點が橋梁の本質により決定されるものなりや或は荷重の本質から決定されるものなるかにつき小澤委員に調査を託す。

6. 本委員会も漸次核心問題に到達し來れるを以て今後は在來案に拘泥せざる斬新合理的改正方針にて進む事とす。

第 7 回コンクリート調査委員会 (昭 12. 1. 27)

出席者: 内山, 金子, 川口, 松村, 野坂各委員, 五十嵐編輯囑託

1. コンクリート試験報告書様式に就き審議し大體の成案を得たり (野坂委員の下にて整理)。
2. 次回には吉田委員の示方書改訂に關する意見の要旨を開き示方書改正案の逐條審議を進める事とす。
3. 獨逸無梁版示方書翻譯野坂委員より提出ありたり。

第 6 回請負工事標準契約書調査委員会 (昭 12. 2. 8)

出席者: 阿曾沼, 稻葉, 河西, 菅野, 近藤, 富永, 堀尾各委員, 沼田調査部長, 宮本理事, 柴原書記長

1. 近藤幹事作成の契約書原案により逐條審議をなせり。

土木學會關西支部記事

第 8 回役員會 (昭 11. 12. 10)

出席者: 清水支部長, 澤井, 奥中, 佐藤各商議員,
岩田, 松島, 後藤各前支部長, 島崎幹事長

1. 昭和 12 年度豫算別紙 (省略) の通り決定せり。
2. 年次學術講演會に關し委員依囑其他の件に就き協議せり。

第 9 回役員會 (昭 11. 12. 21)

出席者: 清水支部長, 澤井, 佐藤, 糠澤各商議員,
島, 後藤兩前會長, 島崎幹事長

1. 昭和 11 年度決算報告別紙 (省略) の通り承認せり。
2. 明年度大會を 1 月 26 日開催することとせり。
3. 年次學術講演會に於ける見學, 懇親, 招待會の

順序を別紙(省略)の通りとせり。

第 10 回大會 (昭 12. 1. 26)

會 場: 中央電気俱樂部 出席者: 93 名

1. 昭和 11 年度決算報告, 同年度事業報告並に昭和 12 年度豫算及昭和 11 年度版土木用材總覽精算報告をなし之を承認し續て昭和 12 年度支部長並に 12 年及 13 年度商議員の選挙の結果次の通り當選せり。

支部長(當選) 133 票 高西 敬 義君

商議員(當選) 131 票 宮内 義 則君

同 130 票 萩原 基 治君

同 129 票 笈 斌 治君

同 128 票 岩崎 雄 治君

同 127 票 石井 順一郎君

同 125 票 青山 秀 雄君

(次點) 3 票 稻 淺 鹿 藏君

以上議事を終り次の講演ありたり。

阪神上水道に就て 工学博士 坂本助太郎君

第 1 回役員會 (昭 12. 2. 3)

出席者: 高西支部長, 奥中, 松田, 糠澤, 澤井, 宮内, 萩原, 岩崎各商議員, 清水, 後藤兩前支部長, 橋本, 佐藤, 中川各前商議員, 鳥崎幹事長, 鮫島幹事, 中村, 内山, 鈴木, 川上, 三輪各講演委員

1. 昭和 12 年度事業を左の通り決定せり。

1 月大會, 2 月晩餐會又は座談會, 3 月座談會又は晩餐會, 4 月第 1 回年次學術講演會, 5 月見學會及巡回講演會, 6 月第 8 回土木工学研究会, 7 月現業講習會, 9 月見學會, 10 月通俗講演會, 11 月座談會又は晩餐會, 12 月忘年會又は座談會

2. 2 月晩餐會又は座談會を次の通り開催することとす。

2 月 15 日於中央電気俱樂部講堂, 講演, 第 2 回國際大堰堤會議報告及視察旅行, 工学博士 石井順一郎君

3. 7 月現業講習會は鮫島幹事に於て關係鉄道會社と協議の上實施することとす。

4. 調査研究事項中外國雜誌翻譯は京大澤井, 石原兩君に一任することとす。

5. 第 1 回學術講演會の件

(イ) 阪神見學場所は前回委員會決定の通りとすること。

(ロ) 淺野セメント工場見學交渉は岡部委員, 阪神見學の方法は奥中商議員に一任することとす。

す。

第 1 回年次學術講演會委員會 (昭 11. 12. 16)

出席者: 清水委員長, 佐藤(代理坂元), 橋本, 柴田, 松田, 糠澤, 奥中, 萩原, 三輪(代理秋浦), 村山, 川上, 荒木, 岩田, 松島(代理柳田), 鮫島, 坂本, 鳥崎, 中村, 宮内各委員, 山本主事, 片山書記

清水委員長より 15 日開催の京都委員會決定事項を報告し之を併せて左の通り講演會及見學會プログラムを決定せり。

第 1 回年次學術講演會順序

1. 講演會

第 1 日 4 月 10 日(土曜日) 自午前 8 時至正午
場所 京大講堂

第 2 日 4 月 11 日(日曜日) 自午前 8 時至正午
場所 京大講堂

第 3 日 4 月 12 日(月曜日)

2. 見學會

第 1 日 京都班 4 月 10 日 午後 1 時 第 1 組
京都御所, 第 2 組 京都市蹴上淨水場

第 2 日 京都班 4 月 11 日 午後 1 時 第 1 組
比叡大津廻遊, 第 2 組 太秦日活撮影所

第 3 日 阪神班 4 月 13 日 午前 8 時 30 分 大阪
市廳前集合

(1) 大阪市御堂筋新道路, (2) 大阪市地下鉄道,
(3) 大阪市津守下水處理場, (4) 淺野セメント工場,
(5) 大阪港, 大阪北港, 尼崎築港, (6) 阪神
國道, (7) 神戸港, (8) 神戸市奥平野淨水場, (9)
神明國道

3. 懇親會

第 2 日 4 月 11 日(日曜日) 午後 6 時より 場
所 京都市都ホテル

4. 招待會

第 1 日 4 月 10 日(土曜日) 午後 3 時 30 分
場所 平安神宮及都廳

5. 會 費

懇親會費 1 人に付 3 円

見學會費 京都班 1 人に付 1 円, 阪神班 1 人に付
1 円

第 1 日晝食辨當代 1 人に付 50 錢

第 2 日晝食辨當代 1 人に付 50 錢

6. 其の他

第 1 日講演會には最初に開催の挨拶をなすこと, 實

- 際の講演は午前 8 時 40 分より開始のこと
- 第 1 日見学会京都班は何れもバスを使用のこと
- 第 2 日見学会京都班第 1 組は廻遊券、第 2 組はバスを使用のこと
- 第 3 日見学会阪神班中大阪市中はバス、大阪港より尼崎築港までは汽船、尼崎築港より神戸まではバスを使用のこと
- 第 3 日見学会阪神班の晝食及夕食は猶好く考究のこと
- 招待会は當分の間プログラムに記載せざること

日本工学会記事

○昭和 12 年 2 月 2 日、日本工業俱樂部に於て日本工学会評議員會を開催し一般會務の報告あり、次で日本工学会昭和 12 年度收支豫算案を可決し、日本工

学会定款変更の件を附議し、定款の 1 部次の趣旨(省略)に依り改正すること、改正條文は理事者に於て専門家の意見を聴きたる上作成し、更に一応評議員の意見を徴し 3 月の總會に附議することに決定せり。

其の他記事

- 昭和 12 年 1 月 14 日役員選挙に就き規則第 15 條に依る所定の投票用紙並に東京府及其隣接縣在住會員名簿を全會員に發送せり。
- 昭和 12 年 1 月 30 日全會員に通常總會開催の通知をなせり。
- 昭和 12 年 1 月 31 日土木学会誌第 23 卷第 2 號を發行成規の手續を了し 2 月 1 日全會員に配付せり。
- 昭和 12 年 2 月 10 日工学博士岡崎文吉君より同君記念基金として 1000 円寄附あり之を受領せり。

入會及転格會員

會 員 (入 會)

相澤九十九君 大阪市役所港務部
 青山秀雄君 大阪鉄道局工務部
 川口廣一君 京都市土木局都市計課
 齊藤久彌君 大井川電力株式会社

品川善次郎君 大井川電力株式会社
 贈定先君 滿鉄吉林鐵路局工務處
 高橋英治君 日本セメント株式会社
 藤波謙一君 台資會社旭土建公司

本泉喜三郎君 大井川電力株式会社
 森吉太郎君 慶尚南道土木課
 大宮利左衛門君 東北振興電力株式会社
 三木巧君 滿鉄四平街建設事務所

准 員 (入 會)

井關敏雄君 哈爾濱特別市公署都市建設局
 伊藤助治君 札幌鉄道局函館線線事務所
 石原喜重君 福島縣廳地課
 乾貞一君 朝鮮總督府鉄道局建設課
 大場吉次君 臺灣總督府交通局道路港灣課
 金子軍作君 内務省江戸川河水統制附帶工事事務所
 川島農一君 同上
 越谷仁郎君 富山縣電氣局土木課
 佐伯重道君 同上
 佐久間巽君 日本製鉄株式会社
 坂本龍雄君 電氣化学工業株式会社
 志柿宣孝君 大阪市役所港務部技術課

篠原次郎君 富山縣廳電氣局土木課
 杉五男君 高知縣廳地課
 鈴木運藏君 青森縣田名郡土木出張所
 岡田清治君 朝鮮總督府鉄道局建設課
 田中恒夫君 神戸市水道部工務課
 高根正郎君 滿鉄錦縣鐵路局工務處
 高橋正行君 朝鮮總督府鉄道局監督課
 遠山明彌君 内務省江戸川河水統制附帶工事事務所
 長岡耕一君 王子製紙株式会社惠比須工場
 野坂宗一君 富山縣電氣局土木課
 坂野鎧君 岐阜縣加納町役場
 深山義治君 富山縣電氣局土木課

藤田三士君 岩手縣廳地課
 星重雄君 岩手縣廳土木課
 堀江民君 柳谷組
 村上隆助君 内務省江戸川河水統制附帶工事事務所
 村山功君 東信電氣株式会社
 安井巧君 京城府廳工部部水道課
 山本保君 富山縣電氣局土木課
 吉田榮次君 同上
 渡邊互君 岩手縣廳地課
 吉村敬輔君 宮城縣廳地課

学 生 員 (入 會)

荒谷俊司君 京都帝大
 家村次夫君 同上
 市嶋武視君 東京帝大
 入江一郎君 京都帝大
 岩井重久君 同上
 尾之内由紀夫君 東京帝大

大竹源太郎君 神戸高工
 大庭徳夫君 熊本高工
 太田貞次君 京都帝大
 王運實君 同上
 奥野多喜夫君 同上
 梶邦彦君 同上

金子健太郎君 東京高工
 河野龍一郎君 京都帝大
 韓龍兒君 同上(還科生)
 黒笹正三君 東映教習所専門部
 小西則良君 京都帝大
 小林利春君 同上

佐々木武基君 北海道帝大
 坂田 中君 京都帝大
 坂本貞雄君 同上
 櫻谷憲一君 日大工学部
 皿井文平君 京都帝大
 重野 行君 同上
 田杉進一君 同上
 田中正夫君 同上
 田村敏彌君 神戸高工
 高倉幹夫君 京都帝大
 辰野憲次君 同上
 齋 纘 男君 同上
 谷川徳磨君 京都帝大
 谷口邦夫君 同上

唐 濠君 東映教習所専門部
 筑瀬 愨君 京都帝大
 南雲義男君 京都帝大
 中村 毅君 同上
 長尾喜隆君 神戸高工
 野口俊夫君 京都帝大
 原 正路君 同上
 福山眞三郎君 同上
 藤井 篤君 同上
 北條 稔君 東京高工
 本間 章君 京都帝大
 町田佐一郎君 同上
 松本正三君 同上
 深山壽夫君 北海道帝大

村井寛義君 京都帝大
 毛利 賢君 同上
 矢部忠雄君 京都帝大
 山岡秀雄君 武蔵高工
 山口信二君 名古屋高工
 山本三男君 京都帝大
 吉岡英文君 同上
 横山 肇君 同上
 林 基弘君 早稲田高工
 古屋敷清一君 熊本高工
 田中 茂君 京都帝大
 田野勝喜君 熊本高工
 西村榮次郎君 京都帝大
 藤本兎喜夫君 同上

小柳 彌君 中川一美君
 井上幸太郎君 武内清澂君

會 員 (転 格)

金澤 節君

准 員 (転 格)

平澤謙二郎君 峰 敏太郎君

土 木 学 會 會 員 數

(昭和 12. 1. 25. 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
2338	2760	607	3	20	6228

准 員 佐藤三男君、佐藤製治君の訃報に接す、本會は恭しく
 哀悼の意を表す

通常總會有志晚餐會記事

2月15日通常總會終了後、引き続き帝國鐵道協會の大食堂に於て會員有志の晚餐會が開催せられた。新舊會長、新舊副會長は主卓の中央に新舊役員、原田、中川、那波、名井、眞田、青山の諸前會長も列席され、出席會員60餘名の盛會であつた。和氣飄々裡に談笑しつつ、食事をとる事しばし、聽て今回留任の辰馬副會長會員を代表して井上前會長初め前役員諸君を送り、大河戸新會長及新役員諸君を迎へる挨拶をされ、大要次の如く述べられた。

“本夕は總會の晚餐會であります、前役員諸君の御慰勞と新役員諸君の就任御祝の晚餐會でもあります。この意義ある晚餐會に斯くも多數會員諸君の御出席下さいました事を厚く御禮申し上げます。顧みますれば本年の土木學會は昨年定款改正の後を受け、實に多事多端な1年でありました。各種の委員會はその數に於て實に20有餘の多きに達し夫々の部門に就て調査研究を完了或は重ねられ、又は有益なる提案をされました。又図書出版に於ては會誌の外に6種類の印刷物を發行し、その内容はどれも堂々たるものであつた事は爰に申す迄もない事でありまして。又出版物のうち明治以前日本土木史は悉くも 献上御採納の光榮に浴した事は本會としては誠にこの上なき光榮と恐懼致してをる次第であります。建議事項に於ては時宜に即した建議案5種を政府及關係方面に提出致した次第であり、その他第3回工學會大會に於ては本會より多數の講聴者を出し、而も内容に於て卓越せる論文の發表せられた事は本會の最も誇りとする所であります。

次に年次學術講演會を毎年開催する事と致しまして今年には京都に於て開催する事とし目下準備を進めつつありますが、講演希望者は90名以上に達してをる状態でありまして、この講演會が誠に時宜に適したものである事を物語つてゐるものと思はれるのであります。

又井上前會長に於かれては關西支部の講演會に參られ本部と支部との緊密なる連絡を図られ、或は又仙臺に於ける講演會に於て本會を代表して講演され、本會の爲に機宜の宣傳を爲された事等は前會長の功績として長く稱えたい事と思ふのであります。前會長には全く自分の仕事を犠牲にされて迄本會の爲に會務を總覽せられたのであります。又前役員の方々には會長を授けて獻身的の努力を以て本會の爲に御盡力下さつた事に對しては深甚の謝意を表する次第であります。”

と井上前會長初め前役員諸氏の御努力を稱え今後の御援助御聲援を御願ひし、次に新役員諸氏に對し先づ學會の榮譽ある地位に就かれた事を御祝ひし、先づ大河戸新會長の經歷を述べ、学識經驗共に優れた申し分なき新會長を戴いた事を喜び、次に新井新副會長の經歷を述べ同様の喜びを申し述べられた。更に新役員として特に青年技術者を迎へた事は本會の今後に新鮮味を期待し得る所であると述べられ、新役員諸氏の御努力を御願ひし、最後に會員の健康を祝して一同乾杯した。

次に井上前會長が退任の役員一同を代表して大要次の如く述べられた。

“只今辰馬副會長から過分の御言葉を頂いて感激の限りであります。我々は誠心誠意多數の御希望に沿ひたいと努力致しましたが、最初期待した事の幾分をも爲す事が出来なかつた不肖の責は何卒御恕しをお願ひ致し度いと思ひます。今日の土木學會の空氣は全く昔と異り新進氣鋭の氣がみなぎつてをります。この空氣を良い方向にすれば本會は益々發展するであらうと思ひます。幸ひ学識經驗に富まれた立派な新役員諸君を御迎へし我々は安心して後を御願ひする事が出来ます。”

と過去1年間の厚意を謝し將來の本會の發展を希望される旨を述べられ、次で大河戸新會長は榮譽ある會長の席を汚すに不適任であるが、誠心誠意本會の爲に努力致したいと謙讓の中にも將來に對する抱負を述べ會員諸氏の御援助御鞭達を御願ひする所があつた。

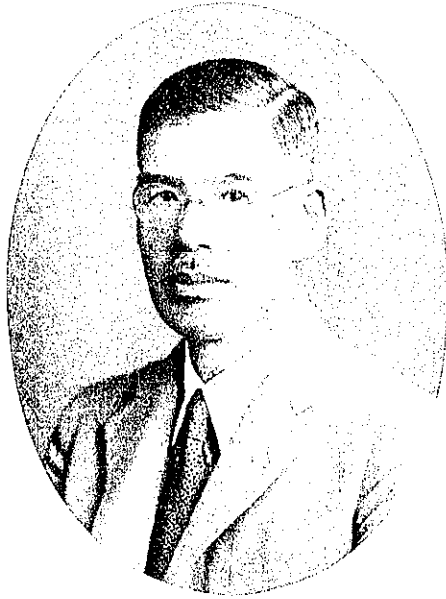
次に新井新副會長は就任の御挨拶を述べられた後、先程の井上前會長の講演に關聯して土木技術は人間社會と切り離して考へる事は出来ない、土木技術は水の様なもので誠に正直である。この正直な土木技術と人間社會との連絡に關し土木技術者は今少し考慮する必要があるはしないかと述べられ、最後に今回御制定になつた文化勳章を我々の仲間から多く戴く様にしたいものであると希望された。

斯くして圓を重ねる毎に盛大となりゆくと本會の晚餐會は賑かに展開されて行つたが、規定の時間も迫つたので、最後に原田前會長の發辭にて土木學會の萬歳を三唱し乾杯して午後8時晚餐會を終了した。

晚餐會出席者芳名

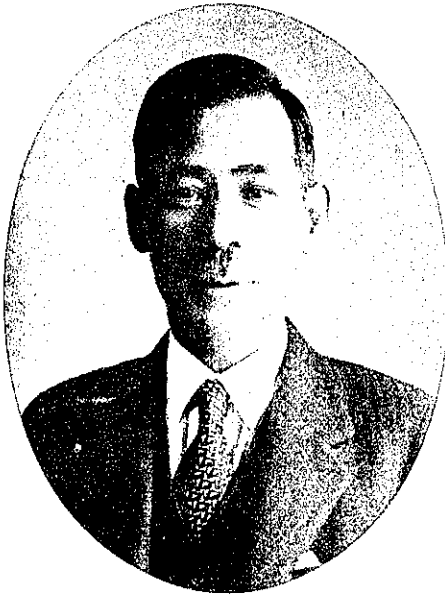
阿曾 沼 均君	青 山 士君	淺 間 逸 雄 君
新井 榮吉君	安 倍 邦 衛君	井 上 秀 二 君
池 邊 稻 生 君	磯 海 國 吉 君	今 泉 茂 松 君

内 田 莊 一 君	上 野 有 芳 君	江 澤 甚 一 君	高 橋 嘉 一 郎 君	辰 馬 鎌 藏 君	千 葉 胤 見 君
衣 斐 清 香 君	海 老 季 美 君	遠 藤 藤 吉 君	中 川 吉 造 君	中 村 光 四 郎 君	仲 田 聰 治 郎 君
小 澤 久 太 郎 君	小 野 基 樹 君	小 宅 習 吉 君	永 井 松 治 郎 君	那 波 光 雄 君	西 尾 銚 次 郎 君
大 河 戸 宗 治 君	大 竹 邦 平 君	岡 崎 保 吉 君	萩 原 俊 一 君	原 靜 雄 君	原 全 路 君
岡 田 悳 治 君	岡 部 二 郎 君	金 子 源 一 郎 君	原 田 貞 介 君	原 田 碧 君	藤 田 弘 直 君
樺 島 正 義 君	榎 木 寬 之 君	河 口 協 介 君	藤 井 眞 透 君	牧 野 雅 樂 之 丞 君	宮 長 平 作 君
河 西 定 雄 君	菊 池 英 彦 君	草 間 偉 君	宮 本 武 之 輔 君	名 井 九 介 君	茂 庭 忠 次 郎 君
楠 宗 道 君	國 澤 新 兵 衛 君	坂 本 丹 治 君	山 極 二 郎 君	山 本 新 次 郎 君	吉 田 直 君
眞 田 秀 吉 君	田 中 豐 君	高 橋 甚 也 君	和 田 大 五 郎 君		



大河戸宗治

會長
工學博士
大河戸宗治



辰馬鎌藏

副會長
工學士
辰馬鎌藏



新井栄吉

副會長
工學博士
新井栄吉

就 任 の 辭

會 長 工 学 博 士 大 河 戸 宗 治

今回計らずも會員諸君の御推舉によりまして榮譽ある本會の會長の席を汚すことになりましたことは小生の最も光榮とする所で誠に感激に堪へぬ次第であります。

我土木學會は創始以來斯界の權威者が相續いて會長となられ今日の發達を見るに至れることは會員諸君の御周知のことでありまして、所が小生の如き淺学菲才の者が此の重任に就くに當りましては内心忸怩たるものがあるのであります。

省れば昭和7年土木學會の振興を計る目的を以て委員會が組織せられ小生も其の末席を汚しまして幾多の振興策が決定せられ爾後名井君、眞田君、久保田君、青山君、井上君等の各會長並に役員會員諸君の御努力によりまして會員は6000名を突破し會誌の内容は面目を一新し幾多の事業は達成せられ今日の隆盛を來たしましたが尙今後に残されたる事業亦渺なからずあると思ひます。且つ今日國家非常時の時に於て吾々會員は益々技術の進歩發達を計り一は以て國力の充實に資し一は以て技術報國の誠を致さねばならぬと思ひます故に小生は之より誠心誠意獻身的に努力致す覺悟でありますから役員職員及會員諸君に於かれましては甚大の御援助と御鞭達を賜はり全會員一体となり以て我土木學會の隆盛を期し併せて名聲を益々顯彰せんことを切望して已まざる次第であります。

會 告

昭和 11 年度事業報告並に決算報告

昭和 11 年度事業報告

理 事	井 上 秀 二	同	平 井 喜 久 松
同	辰 馬 鎌 藏	同	宮 本 武 之 輔
同	萩 原 俊 一	同	藤 井 眞 透
同	沼 田 政 矩	同	宮 長 平 作
同	後 藤 宇 太 郎		

昭和 11 年度事業概要次に報告す。

1. 會 合

昭和 11 年 2 月 14 日午後 5 時より東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く出席者 461 名（委任狀共）にして會長青山土君議長席に着き事業報告、決算報告及役員選舉の結果を報告し定款及規則改正の件可決、次で昭和 10 年度土木賞牌の贈呈あり終つて會長の講演ありたり。

前記以外本年度中に於ける會合は役員會 7 回、理事會 16 回、常議員會 8 回、講演會 3 回、講演及映畫會 2 回、招待會 2 回、談話會 1 回、土木學會振興委員會各部會 17 回、土木技術相互規約調査委員會 5 回、土木文化映畫作製委員會 3 回、土木學會財政調査委員會 1 回、會誌編輯委員會 12 回、抄録打合會 13 回、土木學會コンクリート調査委員會 4 回、請負工事標準契約書調査委員會 5 回、鐵橋示方書調査委員會 7 回、杭の支持力公式調査委員會 2 回、土木學會用語調査會 2 回、土木學會用語調査常置委員會 1 回、行政機構改正調査委員會 7 回、土木土法案調査委員會 3 回、東亞調査委員會 3 回、東亞連絡委員會 5 回、臺灣地方震災調査委員會 2 回、關西地方風水害調査委員會 3 回、維新以前日本土木史編纂委員會 4 回、第 3 回工學會大會土木部講演委員會 2 回なり。

2. 役員改選並に理事選任及部長就任

昭和 11 年 2 月 3 日定款第 22 條に依り會長青山土君、副會長草間倅君、常議員池邊逸生君、金森誠之君、河原直文君、佐藤利恭君、鈴木雅次君、野口寅之助君、古川淳三君退任に付定款第 21 條及規則第 15 條に依り會員の投票を以て改選を行ひ當選したる役員氏名次の如し。

會 長	井 上 秀 二 君		
副 會 長	辰 馬 鎌 藏 君		
常 議 員	河 口 協 介 君	蒲 孚 君	菊 池 英 彦 君
	鶴 田 勝 三 君	萩 原 俊 一 君	平 山 復 二 郎 君
			後 藤 宇 太 郎 君

昭和 11 年 4 月 13 日定款第 41 條及規則第 15 條に依り會員の投票を以て増員常議員の選舉を行ひ當選したる氏名次の如し。

常 議 員	宮 本 武 之 輔 君	關 信 雄 君	沼 田 政 矩 君
	後 藤 茂 君	立 花 次 郎 君	吉 田 直 君

昭和 11 年 4 月 20 日定款第 19 條に依り常議員會に於て理事 6 名の互選を行ひ當選したる理事氏名次の如し。

理 事	平 山 復 二 郎 君	萩 原 俊 一 君	藤 井 眞 透 君
	宮 長 平 作 君	宮 本 武 之 輔 君	沼 田 政 矩 君

昭和 11 年 4 月 20 日規則第 23 條に依り選任せられたる各部の部長氏名次の如し。

總務部長	平 山 復 二 郎 君	經理部長	萩 原 俊 一 君
		編輯部長	藤 井 眞 透 君

調査部長 沼田政矩君 法制部長 宮長平作君 東亞部長 宮本武之輔君
昭和11年9月21日常議員會に於て理事平山復二郎君辭任に依る後任理事互選の結果當選したる理事氏名次の如し。

理事 後藤宇太郎君

昭和11年9月21日總務部長平山復二郎君辭任に依り選任せられたる部長氏名次の如し。

總務部長 宮本武之輔君 東亞部長 後藤宇太郎君

3. 委員會の設置並に委員の依囑及各種委員會の經過

(1) 委員會の設置及委員依囑 昭和11年3月土木學會振興委員會を設置し第1部委員長に 中山秀三郎君
委員に 野村龍太郎君 原田貞介君 古川阪次郎君 岡野昇君 田邊朔郎君 中川吉造君
那波光雄君 名井九介君 眞田秀吉君 久保田敬一君 青山士君 丹羽鋤彦君 八田嘉明君
眞島健三郎君 前川貫一君 大河戸宗治君 米元晋一君 草間倬君を
第2部委員長に 古川淳三君 委員に 阿曾沼均君 井上隆根君 内海清温君 河西定雄君
金子源一郎君 榎木寛之君 久保彌太郎君 兒玉靜雄君 田中豊君 高橋三郎君 徳善義光君
三浦七郎君 山口昇君 山下輝夫君 佐藤利恭君 鈴木雅次君 金森誠之君 萩野廣君
木幡長命君 栢井照藏君 稻葉通彦君 大島末彦君 青木楠男君を
第3部委員長に 太田尾廣治君 委員に 野坂孝忠君 伊藤剛君 内山實君 小澤久太郎君
緒形重吉君 岡崎三吉君 奥田秋夫君 佐藤輝雄君 須之内文雄君 瀬戸政章君 千秋邦夫君
瀧山義君 立花次郎君 富樫凱一君 南保賀君 服部高景君 原田忠次君 船越春雄君
本間仁君 松井達夫君 高木進君を依囑せり。

昭和11年4月日本工學會選出評議員に眞田秀吉君を依囑せり。

昭和11年5月東亞調查委員會を設置し委員長に 中川吉造君 委員に 秋山徳三郎君 淺間逸雄君
井上隆根君 伊澤道雄君 池田鎖男君 池本泰兒君 内海清温君 内田莊一君 何壽祥君
金森誠之君 榎木寛之君 近藤謙三郎君 佐藤應次郎君 杉廣三郎君 鈴木雅次君 田中豊君
高橋三郎君 谷口三郎君 津田正夫君 直木倫太郎君 永井了吉君 東森藏君 古川淳三君
三浦七郎君 森田三郎君 柳澤健君 山口昇君 山田忠雄君 山田隆二君 山領貞二君
を依囑せり。

昭和11年5月東亞連絡委員會を設置し委員長に 久保田敬一君 委員に 池本泰兒君 内田莊一君
岡田信次君 木村芳人君 岸道三君 近藤謙三郎君 佐武正一君 佐藤應次郎君 坂田昌亮君
末森猛雄君 杉廣三郎君 張公一君 趙心哲君 津田正夫君 鶴田勝三君 直木倫太郎君
永井了吉君 成瀬勝武君 東森藏君 本莊秀一君 本間徳雄君 正子重三君 山崎匡輔君
山田胖君 山中寛治君 山本弘君 山領貞二君 易比臈君を依囑せり。

昭和11年5月土木技術者相互規約調査委員會を設置し委員長に 青山士君 委員に 井上隆根君
内海清温君 金子源一郎君 川口愛太郎君 後藤宇太郎君 鈴木雅次君 竹股一郎君 徳善義光君
中野深君 山口昇君 藏重長男君 齋藤鼎君を依囑せり。

昭和11年5月會誌編輯委員會を設置し委員長に 關信雄君 委員に 伊藤健雄君 板倉誠君
稻葉通彦君 大久保一郎君 岡崎三吉君 加藤伴平君 樫部保君 嶋野貞三君 鈴木清一君
長田誠三郎君 野坂孝忠君 廣瀬孝六郎君を依囑せり。

昭和11年5月鋼橋示方書調査委員會を設置し委員長に 田中豊君 委員に 青木楠男君 小澤久太郎君
尾崎義一君 高橋末治郎君 瀧尾達也君 富樫凱一君 成瀬勝武君 西岡宏治君 三浦七郎君
を依囑せり。

昭和11年5月請負工事標準契約書調査委員會を設置し委員長に 池田嘉六君 委員に 阿曾沼均君
伊藤實君 上村爲人君 菅野忠五郎君 久保彌太郎君 近藤鉄太郎君 杉本好太郎君 錢高作太郎君
瀧淵賢烈君 富永正義君 三浦宇三郎君 三浦義男君 宮崎正夫君 宮本保君 森田三郎君

を依頼せり。

昭和 11 年 5 月行政機構改正調査委員会を設置し委員長に 八田 嘉明君 委員に 池邊 裕生君
小野 基樹君 大島 満一君 黒田 武定君 兒玉 静雄君 後藤 宇太郎君 鈴木 雅次君 高橋 三郎君
田中 第二君 立花 次郎君 古川 淳三君 堀 越清六君 三浦 七郎君 三浦 貢君 宮島 三郎君
山下 輝夫君 和田 重辰君を依頼せり。

昭和 11 年 5 月土木士法案調査委員会を設置し委員長に 眞島 健三郎君 委員に 阿部 美樹志君
内海 清温君 江橋 貞二君 樺島 正義君 神原 信一郎君 高橋 甚也君 谷口 三郎君 土井 源三良君
増田 淳君 森 勝吉君を依頼せり。

昭和 11 年 9 月土木学会財政調査委員会を設置し委員長に 前川 貫一君 委員に 阿曾 沼均君 新井 榮吉君
衣斐 清香君 大竹 邦平君 金子 源一郎君 久保 彌太郎君 佐藤 利恭君 杉本 好太郎君 田中 豊君
高橋 三郎君 竹股 一郎君 藤田 弘直君 三浦 貢君 谷井 陽之助君を依頼せり。

昭和 11 年 9 月行政機構改正調査委員に衣斐 清香君, 加藤 伴平君 (幹事), 榎木 寛之君, 高橋 嘉一郎君, 村上 保
則君幹事を追加依頼せり。

昭和 11 年 9 月諸勞工事標準契約書調査委員に稻葉 通彦君, 河西 定雄君, 堀尾 豊熊を追加依頼せり。

昭和 11 年 9 月土木学会コンクリート調査委員会委員に小宅 習吉君を追加依頼せり。

昭和 11 年 9 月鋼橋示方書調査委員会幹事に友永 和夫君を依頼せり。

昭和 11 年 9 月東亜連絡委員会委員に趙福 靈君を追加依頼せり。

昭和 11 年 9 月土木文化映畫作製委員会を設置し 委員長に 金森 誠之君 委員に 青木 楠男君
大石 義郎君 大島 末彦君 片平 信貴君 澤 勝藏君 廣田 孝一君を依頼せり。

昭和 11 年 9 月杭の支持力公式調査委員会を設置し委員長に 谷口 三郎君 委員に 伊集院 久君
尾崎 義一君 金森 誠之君 笹 森 巽君 鈴木 清一君 土本 基君 富樫 凱一君 徳善 義光君
松田 亮治君 松村 孫治君 山口 昇君 山田 正平君 幹事に 石田 武雄君, 藤森 謙一君を依頼せり。

昭和 11 年 9 月土木学会用語調査常置委員会を設置し委員長に中山 秀三郎君, 副委員長に中川 吉造君, 委員に
岡部 二郎君, 齋藤 鼎君, 龜田 素君, 福田 武雄君, 櫻部 保君, 嶋崎 貞三君, 松尾 春雄君, 菊池 明君, 野口 誠君, 町
田 保君を依頼せり。

昭和 11 年 10 月土木学会振興委員会第 3 部会委員に飯島 十郎君, 今井 四郎君, 小宅 習吉君, 柴田 長一郎君,
土生 保君を追加依頼せり。

昭和 11 年 10 月土木学会コンクリート調査委員会委員に金子 柁君, 松村 孫治君を追加依頼せり。

昭和 11 年 10 月東亜連絡委員会委員に松村 恭二君を追加依頼せり。

昭和 11 年 11 月土木士法案調査委員会委員に山崎 匡輔君を依頼せり。

昭和 11 年 11 月東亜調査委員会特別委員長に 山口 昇君 特別委員に 内海 清温君 内田 莊一君
榎木 寛之君 高橋 三郎君 古川 淳三君 山中 寛治君を依頼せり。

昭和 11 年 11 月行政機構改正調査委員会委員に佐藤 利恭君を追加依頼せり。

昭和 11 年 11 月世界動力會議大堤堰國際委員会日本國內委員会委員幹事萩原 俊一君 辭任に付後任に宮本 武之
輔君を選出依頼せり。

昭和 11 年 12 月杭の支持力公式調査委員会委員に綾 龜一君, 石田 武雄君, 片平 信貴君, 河合 宏美君, 小出 讓治
郎君, 坂本 信雄君, 住友 彰君, 當山 道三君, 藤森 謙一君, 三好 宗逸君, 最上 武雄君, 森田 三郎君, 山内 一郎君を
追加依頼せり。

昭和 11 年 12 月東亜調査委員会委員に松山 常次郎君, 別府 節彌君, 幹事に中村 清照君を追加依頼せり。

昭和 11 年 12 月土木学会用語調査常置委員会委員長中山 秀三郎君 逝去に依り後任委員長に中川 吉造君を依頼
し, 委員に小宅 習吉君, 幹事に糸川 一郎君を追加依頼せり。

昭和 11 年 12 月第 1 次學術講演會委員長に 清水 烈君 講演委員に 石原 藤次郎君 大井 清一君
小西 一郎君 近藤 泰夫君 高橋 逸夫君 瀧山 興君 武居 高四郎君 平野 正雄君 米谷 榮二君

幹事に 小林 勇君 澤井八洲男君 見学委員に 有光 正君 荒木文四郎君 岩井芳 通君
 岩崎雄 治君 内山新之助君 岡部三郎君 萩原基 治君 奥中喜代一君 笈 斌 治君 川上留 吉君
 木村 喬君 後藤久吉君 佐藤 鼎君 鮫島午吉君 柴田辰之進君 島崎孝彦君 鈴木義 一君
 高田 景君 高西敬義君 中川幸太郎君 中村滿輔君 長久保俊夫君 糠澤惟助君 橋本敬 之君
 林 千秋君 平野重市君 福留並喜君 松浦不二夫君 松田健作君 三輪周藏君 宮内義 則君
 村山喜一郎君 吉岡計之助君 永田 年君 成瀬 喬君 庶務委員に 岩田成賀君 後藤佐 彦君
 坂本助太郎君 島 重 治君 永井 專三君 松島寛三郎君を依頼せり。

(2) 委員会の経過 土木学会用語調査會：昭和 3 年以來，日，英，獨，佛語に依る土木工学用語の調査研究を
 重ね昭和 11 年 6 月之が完了を見るに至れり。

維新以前日本土木史編纂委員會：明治以前日本土木史の編纂を爲すべく昭和 7 年以來各地方より蒐集せる資料
 に依り調査研究を重ね昭和 11 年 6 月之が完了を見るに至れり。

關西地方風水害調査委員會：昭和 9 年 9 月近畿地方に起りたる大風水害の調査を爲すべく以來關係各地方よ
 りの報告に依り調査研究を重ね昭和 11 年 5 月之が完了を見るに至れり。

臺灣地方震災調査委員會：昭和 10 年 4 月臺灣中部地方に於ける震害の調査を爲すべく以來調査研究を重ね
 昭和 11 年 5 月之が完了を見るに至れり。

土木学会コンクリート調査委員會：從來の鉄筋コンクリート標準示方書及解説の一部を改訂し引き続き増補改訂
 に就き調査研究中なり。

土木学会振興委員會：本年度第 3 次委員會を設け学会振興に就き有效適切なる振興策を提案せり。

土木技術者相互規約調査委員會：我國に於ける技術者相互間の規約制定の必要を認め之が作成に關し調査研究
 中なり。

土木学会財政調査委員會：本會基金の運用及募集其他の財政問題に關し調査研究中なり。

土木文化映畫作製委員會：土木技術の紹介普及並に進んでは本邦土木技術を世界に紹介の目的にて土木文化映
 畫を作製するため調査研究中なり。

會誌編輯委員會：専ら會誌の編纂に當り常に内容の改善に付研究を重ねつゝあり。

鋼橋示方書調査委員會：時代に適應せる鋼橋の設計並に製作の示方書を作成するため之が調査研究を爲しつゝ
 あり。

杭の支持力公式調査委員會：本邦土木工事に適切なる杭の支持力公式を制定するため調査研究中なり。

請負工事標準契約書調査委員會：請負工事に關する標準契約書制定の必要を認め之が調査研究を爲しつゝあり。

土木学会用語調査常置委員會：土木工学用語の増補並に英和工学辭典の改訂を爲すため調査研究中なり。

行政機構改正調査委員會：現在の行政機構に關し改正すべき諸點に付調査研究中なり。

土木士法案調査委員會：既設土木建築士法案調査委員會を解散し新に土木技術専門家のみによる土木士法案の
 研究を爲しつゝあり。

東亞調査委員會：東亞各國に於ける學術規格其他各種の調査を爲し殊に交通大学設置に關しては特別委員會を
 設けて調査研究中なり。

東亞連絡委員會：東亞各國よりの留學生の誘致及指導，歸國後の連絡及後援を図り且つ此目的を達成する爲外
 務省，滿鉄，東亞研究會其他との連絡協力に努めつゝあり。

4. 會誌其他發行

昭和 11 年度中に於て土木学会誌自第 23 卷第 1 號至第 13 號，並に明治以前日本土木史，關西地方風水害調
 査報告，臺灣中部地方震害調査報告（土木学会誌第 23 卷第 8 號附録）鉄筋コンクリート標準示方書及解説（昭
 和 11 年度版）土木工学用語集，丹那隧道工事誌，第 3 回工学会大會講演集及會員名簿を發行せり。

5. 登記並に申請事項

昭和 11 年 2 月 14 日の通常總會に於ける理事の改選及資産の總額を金 138 228 円 63 錢に変更の件は同年 2
 月 19 日其の登記を了せり。

昭和 11 年 4 月 20 日の常議員會に於ける理事就任の件は同年 4 月 27 日其の登記を了せり。

昭和 11 年 2 月 14 日の通常總會に於て決議したる本會定款改正認可申請の件は同年 3 月 14 日主務大臣より認可ありたり。

6. 建議事項

昭和 11 年 5 月 30 日土木技術界の勤勞者中より貴族院勅任議員を詮衡奏請せられむことを内閣總理大臣及各國務大臣に再度建議し併て關係樞密顧問官並に貴族院正副議長及關係貴族院議員に對し配慮方を依頼せり。

昭和 11 年 8 月 6 日旅順工科大学内に土木工学科を速かに設置せられむことを内閣總理大臣並に拓務、文部、大藏大臣及内閣調査局長官、關東局總長、對滿事務局總裁に再度建議し併て旅順工科大学長及同大学商議員に對し配慮方を依頼せり。

昭和 11 年 10 月 23 日土木工事に關する取締法規を完備し全國を通じて一貫せる方針の下に之が取締を勵行せられむことを内閣總理大臣並に内務大臣及法制局長官に建議し、併て内務次官、内務技監、内務省土木局長及各關係課長に對し配慮方を依頼せり。

昭和 11 年 12 月 10 日土木技術家中より特許局審査官並に審判官を増員任用せられむことを商工大臣及特許局長官に建議せり。

昭和 11 年 12 月 23 日尾去澤鑛山堰堤決潰の慘事に鑑み鑛山内重要土木工作物の安全を期するため速に適當の方策を講ぜられむことを商工大臣に建議し併て鑛山局長及各鑛山監督局長に對し配慮方を依頼せり。

7. 明治以前日本土木史獻上

明治以前日本土木史全一卷を

天皇陛下に獻上致度東京府を経て願ひ出でたる處昭和 11 年 8 月 15 日御採納の光榮に浴したり。

明治以前日本土木史全一卷を

滿洲帝國皇帝陛下に獻上致度滿洲國大使館を経て願ひ出でたる處康德 3 年 9 月 8 日御採納の光榮に浴したり。

明治以前日本土木史全一卷を

日本學術振興會總裁秩父宮殿下に獻上申上げ御採納の光榮に浴したり。

8. 土木賞牌基金及其他の寄附

昭和 11 年 1 月 24 日壬子製紙株式會社々長藤原銀次郎君より事業資金として金 1000 円を寄附せられたり。

昭和 11 年 2 月 7 日服部報公會より明治以前日本土木史編纂補助として金 1000 円を交附せられたり。

昭和 11 年 4 月 1 日中山秀三郎君より土木賞牌基金として金 500 円記念基金として金 2000 円を寄附せられたり。

9. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第 21 卷第 1 號に登載せる會員工学博士鷹部屋福平君著“不靜定構造の解法に應用したる撓角分配法”と題する論文に對し昭和 10 年度土木賞牌を贈呈せり。

土木學會誌第 21 卷第 2 號に登載せる會員工学博士池田篤三郎君著“鑄鐵管に於ける流量に就て”と題する論文に對し昭和 10 年度土木賞牌を贈呈せり。

10. 見學視察旅行

昭和 11 年 5 月 10 日第 24 回視察見學旅行として箱根自動車専用道路、宇佐美隧道（網代口）工事及熱海海岸填立工事の視察見學を行ひ會員 31 名の參加ありたり。

昭和 11 年 10 月 10、11 日の兩日に互り第 25 回視察見學旅行として東山温泉一泊、東京電燈株式會社小野川發電所工事並に裏磐梯山五色沼、檜原湖等の視察見學を行ひ會員 70 名の參加ありたり。

11. 關西支部事業の概要

昭和 11 年 1 月 24 日高橋末治郎君に對し庶務幹事としての功績顯著なるに依り胸像を贈呈し感謝の意を表せり。

昭和 11 年度中關西支部に於ける諸會合は大會 1 回、役員會 9 回、講演會 1 回、土木工学研究會 1 回、座談會及晚餐會、5 回、第 1 次學術講演會委員會 3 回、見學會 2 回なり。

12. 會員數

昭和 11 年度中の入會者は會員 169 名 (内准員より転格したる者 140 名), 准員 490 名 (内学生員より転格したる者 260 名), 学生員 226 名, 特別員 1 名, 賛助員 2 名, 合計 888 名にして退會者は會員 28 名, 准員 28 名, 学生員 2 名, 合計 58 名, 死亡者は會員 27 名, 准員 24 名, 学生員 4 名, 賛助員 2 名, 合計 57 名なり。

而して昭和 11 年 12 月末日に於ける現在數は會員 2829 名, 准員 2729 名, 学生員 563 名, 特別員 3 名, 賛助員 20 名, 合計 6144 名なり。

昭和 11 年度決算報告 (自昭和 11 年 1 月 1 日
至 同 年 12 月 31 日)

理事	井 上 秀 二	同 平 井 喜 久 松
同	辰 馬 鎌 藏	同 宮 本 武 之 輔
同	秋 原 俊 一	同 藤 井 眞 透
同	沼 田 政 矩	同 宮 長 平 作
同	後 藤 宇 太 郎	

1. 經常部

収入の部

一、會費	54,010.91
一、入會金	927.00
一、利子及雜收入	11,659.72
合 計	66,597.63

支出の部

一、事務費	24,354.10
一、會誌費	27,921.32
一、事業費	5,945.21
一、コンクリート示方書費	1,525.07
一、工学会費	200.00
一、支部交付金	1,500.00
一、臨時費	1,965.34
一、基金へ戻入	3,186.59
合 計	66,597.63

2. 土木史刊行費

収入の部

一、負擔金其他收入	16,541.10
一、事業資金より繰入	2,814.25
合 計	19,355.35

支出の部

一、印刷費其他	19,355.35
---------	-----------

3. 臨時刊行物費

収入の部

一、第3回工学会大會講演集代收	4,624.36
一、土木工学用語集代收	3,506.25
一、丹那隧道工事誌代收	3,010.17
一、關西地方風水害調査報告代收	1,441.88
一、基金及事業資金より繰入	9,630.90
合 計	22,213.66

支出の部

一、第3回工学会大會講演集刊行諸費	9,685.68
一、土木工学用語集刊行諸費	6,235.44
一、丹那隧道工事誌刊行諸費	3,988.50
一、關西地方風水害調査報告刊行諸費	2,304.04
合 計	22,213.66

4. 假受金

収入の部

一、第3回工学会大會記録其他	693.12
----------------	--------

5. 假拂金

収入の部

一、前年度假拂金収入	円 31.35
------------	------------

6. 基金

収入の部

一、本年度収入	円 2 919.00
一、利子収入	4 985.67
一、経常費より戻入	3 186.59
一、前年度繰越金	118 969.26
合 計	130 060.52

支出の部

一、経常費へ利子繰入	円 4 717.02
一、臨時刊行物費へ繰入	8 979.34
一、翌年度へ繰越金	116 364.16
合 計	130 060.52

7. 事業資金

収入の部

一、本年度収入	円 1 075.00
一、前年度假拂金収入	31.35
一、前年度繰越金	2 359.46
合 計	3 465.81

支出の部

一、土木史刊行費へ繰入	円 2 814.25
一、臨時刊行物費へ繰入	651.56
合 計	3 465.81

8. 貸借対照表 (昭和 11 年 12 月 31 日現在)

貸方の部 (負債)

一、基金	円 116 364.16
一、假受金	698.12
一、翌年度へ繰越金	6 594.91
合 計	123 652.19

借方の部 (資産)

一、有価証券	円 85 024.07
一、信託預金	22 000.00
一、郵便貯金	2 564.20
一、振替貯金	5 368.61
一、銀行預金	1 817.11
一、図書及備品	3 224.26
一、會費其他未收金	3 370.65
一、現金	283.29
合 計	123 652.19

9. 財産目録

貸借対照表資産之部と同一に付省略す。

10. 基金内訳

故古市公威兩博士還暦記念基金	円 19 625.35	故阪田貞明君記念基金	円 1 273.16
故沖野忠雄		故岡崎芳樹博士記念基金	2 037.77
故白石直治博士記念基金	16 939.76	故太田圓三君記念基金	2 878.49
故山崎欽次郎博士記念基金	1 942.38	故坂本雅雄君記念基金	532.00
原田貞介博士記念基金	3 471.45	故川上浩二郎博士記念基金	1 045.60
故廣井勇博士土木賞牌基金	540.00	故古市公威博士土木賞牌基金	507.45
故廣井勇博士還暦記念基金	7 712.78	故來島良亮君土木賞牌基金	503.50
小川梅三郎博士還暦記念基金	1 227.31	故中山秀三郎博士記念基金	2 000.00
故富田保一郎博士記念基金	611.30	故中山秀三郎博士土木賞牌基金	500.00
故石黒五十二博士記念基金	7 503.96	積立基金	14 874.41
故近藤虎五郎博士記念基金	5 076.76	關西支部維持基金	22 000.00
故中島鏡博士記念基金	3 560.73	合 計	116 364.16

會 告

昭和 12 年度土木學會役員氏名報告

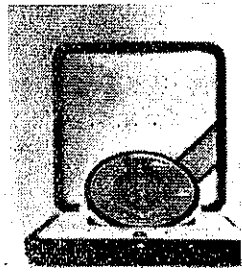
會長	工學博士	大河	戸宗	治君	(新任)
副會長	工學士	辰馬	鎌	藏君	(留任)
同	工學博士	新井	榮	吉君	(新任)
常議員	工學士	阿會	沼	均君	(新任)
同	工學士	淺間	逸	雄君	(新任)
同		海老	季	美君	(新任)
同	工學士	小澤	久太	郎君	(新任)
同	工學士	小宅	習	吉君	(新任)
同	工學士	金子	源一	郎君	(新任)
同	工學士	梶木	寬	之君	(新任)
同	工學士	蒲		孚君	(留任)
同	工學士	河	口協	介君	(留任)
同	工學士	河	西定	雄君	(新任)
同	工學士	菊	池英	彦君	(留任)
同	工學士	久保	田正	雄君	(新任)
同	工學士	後藤	宇太	郎君	(留任)
同	工學博士	關	信	雄君	(留任)
同	工學士	高橋	甚	也君	(新任)
同	B. Ph.	鶴	田勝	三君	(留任)
同	工學博士	中	村光四	郎君	(新任)
同	工學士	沼	田政	矩君	(留任)
同	工學博士	宮	本武之	輔君	(留任)
同	工學士	森	田三	郎君	(新任)

昭和 11 年度土木賞牌受賞者報告

土木學會誌第 22 卷第 11 號所載

「連続拱橋の解法」

會員 工學博士 三瀬幸三郎



土木賞牌

會 告

来る 4 月京都に於て開催の年次学術講演會のプログラム下記の如く決定しました。

	午 前	午 後	夜
第 1 日 (4 月 10 日) (土)	講 演	講 演	
第 2 日 (4 月 11 日) (日)	講 演	見 学	懇親會 (4 円)
第 3 日 (4 月 12 日) (月)	見 学	見 学	
4 月 11 日(日) 見学 (1 円)	A 班 比叡山・大津方面 B 班 八瀬・大原方面 C 班 京阪國道, 下水處理場, 蹴上淨水場及疏水インクライン		
4 月 12 日(月) 見学 (1 円)	阪神方面 (大阪市御堂筋, 地下鐵道, 津守下水處理場, 淺野セメント工場, 大阪港, 大阪北港, 尼崎築港, 阪神國道, 神戸港, 奥平野淨水場, 神明國道)		

講演會に於ける講演題目次の如し。

土木學會年次学術講演會講演題目々次

A の部 (応用力学)

- A-1 會. 工. 武田英吉: 鉄筋コンクリート矩形断面が偏心荷重を受ける場合の鉄筋量決定方法
- A-2 會. 石川時信: 桁に於ける荷重, 剪力, 彎曲力率, 撓角及撓度の表示法及其の簡易化に就て
- A-3 會. 工. 結城朝泰: 兩端固定せる鋼柱が偏心荷重を受ける場合の弾性破損
- A-4 會. 工博. 稻田 隆: 弾性抵抗ある長柱に於て抵抗一部の除去が捩屈に及ぼす影響
- A-5 會. 工博. 安藏善之輔: 水平頂面を持つ重力体中に水平円形孔を穿つた時の応力分布
- A-6 會. 工博. 久野重一郎: 等角寫像適用上から見た弾性学と水理学の比較
- A-7 會. 工. 大坪喜久太郎: 鉛直線を軸とする渦の相似
- A-8 會. 工. 本間 仁: 地下水不定流の計算法
- A-9 會. 工. 山田 元: 土の圧縮強さに及ぼす含水率の影響に就て
- A-10 准. 工. 矢野勝正: 橋桁に對する衝撃の影響
- A-11 會. 工博. 田中 豊: 繰返応力を受くる部材の断面決定に就て
- A-12 會. 工博. 山口 昇: 土の力学の最近の趨勢に就て

B の部 (橋梁及一般構造物)

- B-1 會. 工博. 鷹部屋福平: フィーレンディール構橋の簡易計算法に就て
- B-2 會. 工. 中島 武: 鉄筋コンクリートローゼ桁に就て
- B-3 會. 工. 大野 博: 鉄筋コンクリート無鉸拱の經濟的並に耐震的設計
- B-4 會. 工. 北澤忠男: 鉄筋コンクリート無鉸拱の計算法に就て
- B-5 准. 工. 二松慶彦: 只見線只見川橋梁 (鉄筋コンクリート拱橋) の設計に就て
- B-6 准. 工. 宮澤吉弘: 只見線只見川橋梁 (鉄筋コンクリートゲルバー) の設計に就て

- B-7 會. 工. 高橋逸夫: 大阪大船跳開橋の設計に就て
 B-8 會. 工. 安宅 勝: 可動橋勝岡橋の設計に就て
 B-9 會. 工. 江藤 禮: ラーメン及アーチに於ける支點固定法の影響
 B-10 會. 工博. 鷹部屋福平, 會. 工. 酒井忠明: 橋梁トラスの剛節に依り生ずる二次応力に就て (第 2 報)
 B-11 會. 工. 内山 賢: メナーゼ鉸の圧縮試験に就て
 B-12 會. 大津 寛: 熔接に依る鉄道橋の補強に就て
 B-13 會. 工. 青木楠男: 熔接鉸桁の突縁鉸接手接合角度の強度に及ぼす影響に就て
 B-14 會. 堀田 博: 鉄道省に於て使用せる軌條桁及軌條吊桁の各型式
 B-15 會. 工. 吉田朝次郎: 日ノ影線綱瀬橋梁工事に就て
 B-16 會. 工. 市川順市: 只見線第四平石川橋梁工事に就て
 B-17 准. 辻口淺吉: 音更線第三音更川橋梁工事に就て
 B-18 會. 石田武雄: 田形水槽の基礎に就て
 B-19 會. 工. 松村孫治: 壁厚の直線的に変化する田形水槽の応力計算

C の部 (鉄道)

- C-1 飯塚 博: 東京附近に於ける國有鉄道の交遷並に將來計畫に就て
 C-2 會. 工. 山口 繁: 全通後に於ける土讃線に就て
 C-3 會. 工. 山田 督: 關門連絡線の陸上設備計畫
 C-4 會. 工. 立花次郎: 關門隧道並にその前後の鉄道改良計畫
 C-5 會. 工. 古藤猛哉: 停車場本線の配列に關する幾何学的考案
 C-6 會. 工. 佐藤 鼎: 我國に於けるハンプの現状
 C-7 准. 工. 八木建二: 電化區間の踏切鋪裝に就て
 C-8 會. 工. 山下清吉: 國有鉄道踏切施設に就て
 C-9 會. 工. 岡部二郎: 國有鉄道の速度昂上對策に就て
 C-10 會. 工. 山田二三男: 軌道構造と保守勞力の關係に就て (軌道調査成績)
 C-11 准. 工. 川又久夫: 軌條及分岐器の熔接修理に就て
 C-12 工. 星野陽一: アンチクリーパーの效果に就て
 C-13 春名禎任: 保線より見たる佐賀線の可動橋に就て
 C-14 菊地輝雄: 鉄道の風害とその防備對策に就て

D の部 (土木材料)

- D-1 工理. 島田八郎: コンクリートの熱的性質に就て
 D-2 會. 工. 眞井耕象: コンクリート新填充法 (墜撃式) に依る鉄筋コンクリート柱の實驗成績 (第 1 報)
 D-3 會. 工. 野坂孝忠: セメント軟練モルタル試験法に就て
 D-4 會. 工. 西川榮三: 混成タールの風化作用に依る性質の変化に就て
 D-5 工. 福島彌六: アスファルト乳劑の性質とその製法の特異性に就て
 D-6 准. 工. 古賀 登: 隧道内に於けるコンクリートの腐蝕に就て

E の部 (隧道及施工法)

- E-1 會. 工. 加納儉二: 仙山線仙山隧道直轄工事に就て
 E-2 會. 工. 石川九五: 伊東線宇佐美隧道工事に就て
 E-3 會. 工. 岡本 港: 八幡濱線夜晝隧道工事に就て
 E-4 准. 工. 桑原彌壽雄: 大糸線眞那板隧道工事計畫並に坑外設備に就て
 E-5 會. 福留並喜: 安治川河底隧道
 E-6 會. 工. 瀧山 與: 隧道の建設方式
 E-7 會. 工. 風間武雄: 木次線第四坂根隧道に於ける断層に就て
 E-8 會. 工. 石川九五: 豆砂利注入に就て

- E-9 會. 工. 池田徳治; 青森築港工事に於ける坑道式爆破に就て
 E-10 准. 工. 齋藤卯之吉; 女川線北上川橋梁下部工事に就て
 E-11 會. 工. 高原芳夫; 紀勢中線熊野川橋梁架設工事に就て
 E-12 准. 長谷川章平; 二俣線天龍川橋梁架設工事に就て

F の部 (上下水道)

- F-1 會. 工. 北澤貞吉; 各種断面形状の下水渠の共通勾配式に就て
 F-2 會. 工. 藤田弘直; 横濱市下水道計畫に就て
 F-3 會. 工. 成瀬 薫; 名古屋市に於ける下水處理と便所改良事業關係に就て
 F-4 會. 工博. 島崎孝彦; 上水道に於ける二重濾過の研究
 F-5 准. 工. 松見三郎; 急流濾過池の運行に就て
 F-6 會. 工. 小野基樹; 東京市水道小河内貯水池に就て
 F-7 會. 今中權六; 伏流取水方法に就て
 F-8 會. 工. 醫. 廣瀬孝六郎; 尿尿の消化作用に就て

G の部 (水力電氣, 河川及港灣)

- G-1 會. 工. 渡邊義道; 信濃川發電工事土堰堤並に調制機能に就て
 G-2 會. 工. 阿部謙夫; 信濃川發電工事に就て
 G-3 會. 工. 平井彌之助; 川邊發電所工事特に堰堤下流洗掘対策
 G-4 會. 工博. 平野正雄, 會. 工. 石原藤次郎; 河床洗掘上より見たる橋脚形状の實驗的研究 (第 1 報)
 G-5 會. 工. 松尾春雄; 利根川河口附近の工事が河の流況及砂洲の移動に及ぼす影響に於ての模型試験
 G-6 會. 工. 淺野 好; 支那大遼河に就て
 G-7 會. 工. 西 義一; 天龍川
 G-8 會. 工. 山口十一郎; 矢作川流量調節池に就て
 G-9 准. 北村祐彌; 新しき護岸工
 G-10 會. 工. 杉戸 清; 名古屋市に於ける河川と港灣の淨化に就て
 G-11 會. 工. 永田 年; 鴨川改修計畫
 G-12 會. 工. 内山新之助; 大阪港に就て
 G-13 會. 工. 北澤貞吉; 漂砂の活躍する海岸に採用すべき築港方式に就て
 G-14 會. 工. 柳澤米吉; 波圧力に就て

H の部 (測量, 都市計畫及道路)

- H-1 會. 工. 土本 基; 鉄道線路航空測量實施に就て
 H-2 會. 工. 林 猛雄; 航空寫眞測量に於ける被覆面積に就て
 H-3 會. 工. 武居高四郎; 我國都市計畫の推移
 H-4 會. 工. 大崎虎二; ゴムブロック舗装に就て
 H-5 會. 工. 近藤泰夫; コンクリート舗装の龜裂
 H-6 會. 田中俊一, 前田利一; 道路標識に就て

J の部 (土木一般)

- J-1 那須 信治; 彈性波に依る地質調査に就て
 J-2 荻村龍城; 鉄道線路の建造物基礎に應用せる電氣地質調査に就て
 J-3 准. 中澤政次; 投下爆彈に對する耐彈構築に關する研究
 J-4 會. 工博. 高西敬義; 近畿將來に於ける土木事業計畫
 J-5 會. 坂元左馬太; 名古屋に於ける土地の垂直変動に就て

會 告

第 5 回萬國応用力學會議開催通知

1. 會 期 昭和 13 年 (1938) 9 月 12~16 日
2. 場 所 米國マサツチユセツツ州ケンブリツヂ, ハーバード大学及マサツチユセツツ工科大学
3. 部 門
 - I. 構造, 弾性, 塑性, 疲勞, 破損法則, 結晶構造
 - II. 流体及空氣力学, 氣體力学, 水力学, 氣象, 水波, 熱傳導
 - III. 固体力学, 振動及音響, 摩擦及減摩, 磨耗及喰込
4. 見 学 豫定地及場所
ワシントン (National Bureau of Standards),
ラングレーフィールド (National Advisory Committee for Aeronautics)

奮つて参加されんことを希望します。

會 告

會費御拂込に就て御願ひ

昭和 12 年第 1 期の會費を頂く時期になりましたので来る 3 月より會員各位の御手数を省くため集金郵便を差向けますから御旅行その他にて御不在でも御拂込に支障なき様特に御配慮を願ひます。

集金郵便を取扱はない地方の會員に對しましては振替貯金拂込用紙を同封して御請求申上げますから最寄の郵便局へ即時御拂込を願ひます。

集金郵便も振替貯金も取扱はない地方の會員の方々は誠に御手数であります但し郵便爲替其他の方法で 4 月末日までに御送金を願ひます。

第 2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集頒布

第 2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集が発行されました、御希望の方は土木學會又は下記宛御申込み下さい、土木學會々員に限り 60 錢（外に送料 4 錢）にて頒布致します。（論文目次、土木學會誌第 23 卷第 2 號參照）

發行所 東京市麴町區丸ノ内 3 ノ 4 日本動力協會内

世界動力會議大堰堤國際委員會

日本國內委員會

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		准 員	
荒川 參太郎君	稻 葉 彌 吉君	木村 貫一郎君	小 林 源 次君
藤 増 能君	山本 保之助君		
和 泉 高 嚴君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	萩 原 官 六君
栗 田 忠 治君	小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君
會 我 進君	福 島 保君	船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君
本 橋 二 郎君	吉 見 胤 陸君	中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君
吉 田 二 億君	劉 作 禮君	濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君
水 原 譽 文君	宮 田 肇君	横 田 清 治君	石 原 三 郎君
齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君		

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其他會議，催物の簡單なる紹介
- 官廳，會社，公共團體の組織，事業に関するニュース
- 法規，示方書，規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学，土木工事，土木學會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	*	*	*	*	—	—	—	*	—	*	*	*	1.00
21	—	—	—	*	*	—	—	—	*	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)													1.50
災害調査報告書(1,2,3)													18.00
応用力学聯合大會講演集													1.00
鉄筋コンクリート標準示方書													1.00
前 上 解 説													3.50
土木工學論文抄録													0.50
土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)													1.80
昭和 9 年關西地方風水害調査報告													2.50 (送料別)
土木工學用語集													

上記残部會誌御希望の場合は所定金額を齋藤口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	裏表紙 3 面對 向及廣告初頁 裏表紙 3 面 色アート		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
			1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を入挿する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1月~6月)	第 2 期分 (7月~12月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 健 雄	板 倉 誠	稻 葉 通 彦	大 久 保 一 郎
	岡 崎 三 吉	加 藤 伴 平	櫻 部 保	嶋 野 貞 三
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 忠	廣 瀬 孝 六 郎

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIII, NO. 3, MARCH 1937.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	17
Presidential Address,	
Characteristics of Civil Engineering.	
By <i>Syūzi Inoue, C. E., President.</i>	209
Addresses.	
On the Boulder Dam.	
By <i>Motoki Ono, C.E., Member.</i>	213
The Description of Third World Power Conference, Second Congress on Large Dams and Technical Study Tours.	
By <i>Eiitirō Isii, Dr. Eng., Member.</i>	225
Paper.	
On New Method of Calculation and Some Characteristics of Secondary Stresses in the Frame of Bridge Trusses due to Rigidity of Joints.	
By <i>Hukuhei Takabeya, Dr. Eng., Member.</i>	
By <i>Tadaaki Sakai C. E., Member.</i>	251
Discussions.	287
Notes on Matters of Interest.	297
Current Notes.	305
Abstracts of Selected Articles.	313
Patent News.	335
New Publications.	337

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNCUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.